

# 市史通信

## 第22号

【発行日】2015年3月31日  
 【編集・発行】横浜市史資料室  
 〒220-0032  
 横浜市西区老松町1番地  
 横浜市中央図書館・地下1階  
 【電話】045-251-3260  
 【FAX】045-251-7321  
 【E-mail】  
 so-sisiryu@city.yokohama.jp  
 【ホームページ】  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/housei/sisi/>



不発弾を処理する米兵 1946年 場所は横浜とされるが詳細は不明  
 爆弾は形状とサイズから大型焼夷弾M47と思われる

米国国立公文書館所蔵

- 【目次】
- 横浜の空襲
  - 横浜現代史人物伝③  
又木 誠八郎
  - 桜木町デパート根岸線高架下移転案
  - アンケート集計結果より
  - 開架資料紹介  
『広報よこはま』
  - 市史資料室たより

## 横浜の空襲

横浜の空襲といえば、誰もが五月二十九日の横浜大空襲、あるいは四月五日の鶴見空襲を思い起こすであろう。しかし、横浜における空襲は、この二回にとどまるわけではなく、被害の記録があるものだけで二九回に及ぶ（一九四二年四月一日のドーリットル空襲は除く）。たびたび艦載機やP51の来襲があり、少数のB29の目撃証言もある。ピラ撒布や、上空で空中戦が行われたという記録もある。

横浜の空襲の概略については、『横浜の空襲と戦災』1 体験記編（横浜市、一九七六年）の巻末に掲載されている「横浜空襲の概要」が、簡潔かつ網羅的にまとめている。また、『横浜の空襲と戦災』編集にも参加した今井清一氏の『新版 大空襲5月29日』（有隣新書、一九九五年）は、横浜の空襲に関する研究の集大成といえる。

今回は、ひとまず記録が明確な二九回を取り上げ、その空襲の概略を表にまとめてみた。先の「横浜空襲の概要」末尾には、神奈川県がまとめた「県下における空襲被害状況一覧表」が掲載されている。この一覧と米軍の記録を照合するのが、今回の表作成の趣旨である。県の一覧は、元々県全体で五二回に及ぶ表であり、『空襲と戦災』の一覧ではその中から横浜関係二八回分が抽出されている。ここでは、これに瀬谷駅での被害について複数の証言の

ある八月三日を加えて、二九回分について表にまとめた。

### 機銃掃射と爆撃

米軍による空襲には、B29による爆撃と、艦載機あるいはP51による攻撃がある。艦載機は沖合の空母から、P51は硫黄島の基地から来襲した。多くは艦載機やP51の部隊だけで出撃し、爆弾・焼夷弾による攻撃や機銃掃射が行われた。個別の攻撃目標をねらうと同時に、一般市民を威嚇・殺傷することを目的としていたと思われる。

艦載機・P51による空襲一回の被害だけで、県内の死者は二二二人に及ぶ。横浜にも来襲した八月十三日は、県内あわせて五六人の死者を出している。小規模なB29の爆撃にも匹敵する被害といえる。

B29による爆撃は横浜では一八回を数え、少数機による二回を除き米軍の「作戦任務報告」が確認されている。四月一日と五月二十九日の「作戦任務報告」は、翻訳が『横浜の空襲と戦災』4 外国資料編（横浜市、一九七七年）

に収録されている。今回は、国立国会図書館のデジタルコレクションで公開されている一九四五年二月以降の「作戦任務報告」と、「作戦任務要約」「作戦任務概要」の翻訳を収録した『日本空襲の全容』（小山仁示編、東方出版、一九九五年）を基に、できる限り作戦内容を確認した。

作戦任務報告のあるものについて、

26	8.1~2	作戦任務第310号(川崎石油コンビナート)	横浜市、川崎市、津久井郡	第315航空団：B29-128機(122機)	M64・4,205=計1,051.2t	22:14~23:36	70	26	420	172
27	8.3		戸塚区、小田原市、足柄上・高座郡	[P51-37機]			6	13		
28	8.10		横浜市	[艦載機-4機]			3		3	
29	8.13		横浜市、川崎市、平塚市、小田原市、藤沢市、足柄上・足柄下・高座郡	[艦載機-200機]			56	72	401	37

出典：作戦任務・出撃機数・投下爆弾・投下時間は、米軍の作戦任務報告(国立国会図書館デジタルコレクションおよび小山仁示編『日本空襲の全容』東方出版、1995年)による。被害地域・死者・負傷者・罹災者・罹災戸数と一部の機数は、神奈川県調査「神奈川県下の空襲被害状況一覧表」(『神奈川県警察史』中巻、1972年)を基に一部修正した。

注：①作戦任務の()内は第一目標。②出撃機数は、部隊名、機種・機数を記した。機数の()内は実際の爆撃機数、\*印は損失機数。[]内の機数は日本側の記録による。③投下爆弾は、通常爆弾/焼夷弾/照明弾等の順で示した。主に横浜を爆撃した空襲については、種類毎に弾数を示し、最後に合計数と重量を記した。④死者・負傷者・罹災者・罹災戸数は神奈川県内合計数で、横浜分が判明するものは、()内に記した。

その第一目標を示してみたところ、意外なことがわかった。作戦任務報告が確認できた空襲一六回のうち、横浜・川崎以外を目標にしたものが実に九回に及ぶのである。気象条件で目標をとらえられなかったり、高射砲や迎撃機によりコースを変更するなど、目標変更の要因は様々である。

あらかじめ米軍機は、「産業都市」のどこでも「臨機の目標」として爆弾を投下するよう指示を受けていた。横浜が目標に入っていなかった爆撃九回のうち三回は、隣接市街地の「はみ出し爆撃」といえる。残りの六回は、「東京の軍事工場をねらった「精密爆撃」だったが、必ずしも隣接していない横浜・川崎を爆撃している。いずれも、東京爆撃のコースにあった横浜・川崎が、第二目標あるいは臨機の目標として、爆撃を受けたのである。

当時の風聞では、米軍は特定の目標をねらったり、逆に目標からはずたとされるが、米軍は人口の集中する都市そのものを破壊しようという意図を強く持っていたのである。

### 精密爆撃と都市爆撃

精密爆撃の際には、通常爆弾によると思われる被害が記録されている。表では省略したが、四月四日には全壊戸数四二四戸、七月二五日は一三三戸、六月一〇日が一二六戸など、通常爆弾による直接被害と思われる割合が高くなっている。投下爆弾は、六月一〇日

と七月二五日は通常爆弾のみ、四月四日も通常爆弾が七七%を占めている。

日本の空襲では、焼夷弾というイメージが思い浮かぶ。実際、日本の大都市を焼きつくしたのは、主にM47とM69という大・小の焼夷弾であった。しかし、京浜工業地帯を抱えていることもあって、横浜では通常爆弾による被害が意外に多い。とくに四月四日は、死者数からいうと、横浜で五月二九日・四月一五日に次ぐ三番目の被害であった。これに続くのが、知られざる六月一〇日の富岡の空襲である。

四月四日は立川が第一目標であったが、雲におおわれていたため四七機が横浜・川崎を爆撃したという。六月一〇日は、日本飛行機富岡工場を目標としていたにもかかわらず、工場周辺の民家や京浜急行線のトンネル、根岸湾の向こうである本牧に爆弾が直撃して、市民に大きな被害を出した。

表では、投下爆弾を通常爆弾・焼夷弾・照明弾等に分けて示した。通常爆弾では、五〇〇ポンド(二五〇Kg)のM43・M64がほとんどで、一部二〇〇ポンドと超大型のM66が投下されている。さらに、T4E4(五〇〇ポンド)やM81(二六〇ポンド)という破片爆弾、いわゆるクラスター爆弾の一種が使用された。破片爆弾は、それ自体の破壊効果よりも、市民を威嚇し、消火活動を妨げるため、都市爆撃の際に少数投下された。

一方、焼夷弾は、油脂(ナパーム)

焼夷弾であるM69の集束弾E46(三八発、五〇〇ポンド)などや大型のM47(一〇〇ポンド)が中心だった。他に、テルミット・マグネシウム焼夷弾M50を一一〇発集束したM17(五〇〇ポンド)や、大型のナパーム・マグネシウム焼夷弾M76(五〇〇ポンド)などが投下された。この他、照明・閃光弾M26・M46や発煙弾としてM47が少数投下される場合もあった。

このように様々な爆撃手法を用いたことは、米軍の爆撃の本質を理解する上で重要な点である。米軍は、新鋭機のB29によって、いかに少ない損失で効果的な爆撃ができるかを模索していた。よく精密爆撃から無差別都市爆撃に作戦が転換されたといわれるが、三月以降もこの両者は並行して実施され、横浜・川崎は、横浜大空襲の後もたびたび精密爆撃の標的となった。

しかし、精密爆撃であっても、目標だけを正確にねらったわけではなく、臨機の目標も爆撃している。米軍は、軍需産業を直接破壊するよりも、都市住民に深刻な打撃を与えて、生産の基盤である労働力をそぎ、戦意を喪失させることの方が、より効果的と考えるようになっていったのである。

その究極が、原子爆弾であった。横浜が原子爆弾の目標の一つとなっていたことは、偶然ではなかった。そして、原爆の目標からはずされた後、横浜の中心市街地は焼きつくされたのである。

(羽田博昭)

横浜の空襲一覧

	月日	作戦任務	被害地域	出撃機数	投下爆弾	投下時間	死者	負傷者	罹災者	罹災戸数
1	1944.12.25	気象偵察攻撃第56号・第57号(小倉石油(神奈川区守屋町))	鶴見区・港北区	第73航空団第500爆撃群:B29-3機(2機)	／M18-38／M46-2=計40発			5	26	7
2	1945.1.9	作戦任務第18号(中島飛行機武蔵製作所)	中区・神奈川区・鎌倉郡・横須賀市	第73航空団:B29-72機(52機)*6機		14:13～14:35	6	5	12	
3	2.15		戸塚区(戸塚海軍病院)	[B29-2機]			3		3	
4	2.16		横浜市、川崎市、横須賀市、藤沢市、小田原市、平塚市、三浦・中郡	[艦載機-273機]			24	162	170	
5	2.17		横浜港、川崎市、藤沢市、平塚市、中・高座郡	[艦載機-320機]			11	90	91	1
6	2.19	作戦任務第37号(中島飛行機武蔵製作所)	鶴見区・神奈川区	第73・第313航空団:B29-150機(131機)*6機	M43・M64／M17・M76／	14:49～15:47	8	15	312	53
7	2.25		鶴見区、足柄下・足柄上郡	[艦載機-116機]			2	8	10	
8	3.10	作戦任務第40号(東京市街地)	港北区	第73・第313・第314航空団:B29-325機(299機)*14機	／M69(E28・E46)・M47／	0:07～3:00		1	134	22
9	3.20		港北区	[B29-1機]				1	1	
10	4.2	作戦任務第51号(中島飛行機武蔵製作所)	港北区、藤沢市辻堂、川崎市木月	第73航空団:B29-121機(115機)*6機	M64／／M26	2:02～3:29	1	4	8	1
11	4.4	作戦任務第57号(立川飛行機)	神奈川区・鶴見区・港北区・西区平沼町、川崎市	第73航空団:B29-113機(109機)*1機	M64-3,498／M47-920／M26-136・M90-8=計4,562発・906.3t	2:30～4:34	398(214)	516(215)	5,873(4,103)	1,163(765)
12	4.7	作戦任務第58号(中島飛行機武蔵製作所)	西区・南区・保土ヶ谷区・磯子区・鎌倉郡	第73航空団:B29-107機(103機)*3機／P51-116機*2機	M66／／	10:00～10:06	1	4	5	
13	4.15～16	作戦任務第68号(川崎市街地)	鶴見区・神奈川区・港北区・保土ヶ谷区・西区・南区・磯子区・中区、川崎市	第313・314航空団:B29-219機(194機)*11機	M64-77・T4E4-101／M69(E46)-145,274・M47-9,169／M46-90=計154,711発・1,160.5t	22:43～0:56	972(345)	2,212(654)	264,411(80,362)	52,655(19,181)
14	4.19		南区・戸塚区、高座郡、三浦郡	[P51-40機]			8	3	148	35
15	4.24	作戦任務第96号(日立航空機立川工場)	横浜港、葉山町、津久井郡	第73・第313・第314航空団:B29-131機(124機)*5機	M64／／M26	8:52～9:05				
16	5.17		戸塚区、藤沢市、高座・中郡	[B29-1機／P51-40機]			3	5	25	5
17	5.24	作戦任務第181号(東京市街地)	中区・西区・鶴見区・神奈川区・保土ヶ谷区・戸塚区・港北区、川崎市、高座郡	第58・第73・第313・第314航空団:B29-558機(525機)*17機	／M69(E36・E46)-545,414・M47-22,544・M50(M17)-21,450／M46-133=計581,824発・3,686.3t	1:39～3:38	74(24)	185(59)	9,933(5,007)	2,047(979)
18	5.25～26	作戦任務第183号(東京市街地)	港北区、川崎市、高座郡	第58・第73・第313・第314航空団:B29-498機(470機)*26機	M81／M69(E36・E46)・M74(E48)・M47・M76・M17／M46	22:38～1:13	7	15	8,282	115
19	5.29	作戦任務第186号(横浜市街地)	中区・南区・西区・神奈川区・保土ヶ谷区・鶴見区・磯子区、川崎市	第58・第73・第313・第314航空団:B29-510機(475機)*7機／P51-101機*3機	／M69(E28・E36・E46)-360,582・M47-22,662・M50(M17)-9,020／M47-7=計392,271発・2,690.3t	9:22～10:30	3,787(3,649)	12,391(10,197)	313,144(311,218)	79,350(78,949)
20	6.10	作戦任務第196号(日本飛行機富岡工場)	中区・磯子区	第58航空団:B29-33機(33機)	M64-711=計177.8t	9:24～9:29	136	494	1,450	144
21	7.10		横浜市、横須賀市、愛甲・高座・足柄下郡	艦載機-420機			9	15	6	
22	7.12～13	作戦任務第267号(川崎石油センター)	鶴見区、戸塚区、南区、川崎市	第315航空団:B29-60機(54機)*2機	M64-1,840=計460t	0:06～1:19	215	133	773	98
23	7.18		横浜市、横須賀市、三浦・鎌倉・愛甲郡	[艦載機-250機]			15	74	661	152
24	7.25～26	作戦任務第291号(川崎石油コンビナート)	鶴見区、川崎市	第315航空団:B29-83機(76機)*1機	M64-2,708=計677t	22:23～23:03	115	98	396	160
25	7.28		横浜市、横須賀市、川崎市、平塚市、愛甲・中郡	[P51-50機]			5	40		